

第 12 回気象文化大賞
成果報告会 開催報告

2023



みんなで気象文化を作ろう！

wxbunka.com

一般財団法人 WNI 気象文化創造センター

第 12 回気象文化大賞成果発表会の開催報告

この度、2023 年 5 月 23 日(火)に第 11 回気象文化大賞の成果発表会を開催しましたので、報告します。

第 12 回気象文化大賞は、2022 年 2 月～4 月に公募し、選考委員会（東京大学中須賀真一氏を選考委員長とする）による厳正かつ公平な審査のもと、11 件の受賞者を決定しました。今回はそのうち 10 件と第 9 回の 1 件の受賞者が参加し、成果発表会を行いました。

（受賞内容はこちらを参照 https://www.wxbunga.com/cms/wp-content/uploads/2022/02/result-of-12th_202205.pdf）

●開催概要

- ・参加者：当財団役員、同選考委員、第 12 回気象文化大賞受賞者
- ・開催日：2023 年 5 月 23 日(火)
- ・方法：zoom を用いたオンライン会議形式
- ・発表中の様子（YouTube 動画）：<https://youtu.be/-nTnQR2WPEk?si=paLK-2oEmWQW5L4i>

●プログラム

発表会は下記のプログラムで進行しました。

No.	発表者	タイトル
1	内田紀之 (東京農工大学)	大気中二酸化炭素の超高感度検出を可能にする構造色センサー
2	Toshiyasu NAGAO (Laboratory for Environmental Research at Mount Fuji, Certified NPO Mount Fuji Research Station)	Drone ionospheric potential measurement providing surface ionospheric temperature
3	岩崎博之 (群馬大学)	気象衛星ひまわり赤外多波長データを用いた落雷予測のための基礎研究
4	山崎政彦 (認定NPO 法人大学宇宙工学コンソーシアム)	地震先行電離圏変動現象検知のための CubeSat のフライト・モデル製作に向けて：衛星バス・サブシステムの打ち上げ環境および宇宙環境適応試験
5	Masashi KAMOGAWA (Natural Disaster Research Section, Global Center for Asian and Regional Research, University of Shizuoka)	Hybrid probes of DC-HF electric-field and plasma measurement for more than 6U CubeSat and parasitic payload of small satellite observing atmospheric and space electricity
6	楠城一嘉 (NPO 法人富士山測候所を活用する会)	地面の揺れのビックデータから富士山の火山活動監視
7	伊藤優香 (個人)	ひこうき雲の観測と実験
8	南部拓未・渡部敦 (宮城県仙台第三高等学校)	G I S やタイムラインを用いた防災・減災教材の開発 －地震・大雨等を起因とする災害対策－
9	名越利幸 (国立大学法人岩手大学)	科学教育用気象シミュレーター「クレス」の教育実践と市民への普及・啓発に関する研究
10	森永由紀 (明治大学) 第9回受賞者	携帯式気圧計を用いたモンゴル遊牧民の気象情報リテラシー向上に関する研究
11	瀧本家康 (宇都宮大学)	市販の放射温度計を活用した気温の通減率と雲底高度の測定実験の開発と実践

● 選考委員 (敬称略)



◇中須賀真一： 東京大学航空宇宙工学専攻教授。



◇戸矢時義： 元 WMO 国連世界機構機関アジア・太平洋地区部長。



◇武田康男： 第 50 次南極観測隊。空の探検家。元千葉県立東葛高等学校教諭。



◇廣川州伸： 合資会社コンセプトデザイン研究所所長。



◇内藤邦裕： 株式会社ウェザーニューズ。ウェザーフォーキャスト統括リーダー。



◇宮部二郎： 当財団代表理事。SHIRASE5002 艦長。

問合せ先

一般財団法人 WNI 気象文化創造センター

<住所> 〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-3 幕張テクノガーデン

<電話番号> 043-274-3191

<設立> 2009 年 12 月 1 日

<HP> <http://wxbunka.com>